

こんなイベントがありました！ (A・Yの感想)

2/2(土)には、自遊空間さんとビリヤードとダーツを貸し切って遊びました！
どちらも初挑戦という方もいましたが、経験者の方のリードで
皆さん楽しむことができました(*∇*)



2/9(土)は講師をお招きしてのバンゲル作り♪

すごく丁寧に教えてくださり、男性の方でも簡単にできました！

始めは抵抗のあった男性の方も、最終的には楽しんでいて好評でした(*ω*)



就労移行支援事業所とは？

就労移行支援事業所とは、障害があっても一般企業に就職したいという方に対して支援やサポートをして、就労というスタート地点まで導く、福祉サービスです(^^) /

その中でもアイ・ワークス西明石の特徴は、

- 1, オーダーメイドな個別支援 (一人ひとりにあった個別支援！)
- 2, お弁当・検定料・教材参考書の費用の補助
- 3, 利用者主体の模擬会社 (現在、販売課と広報課があります。会社で働く流れを実践できます！)
- 4, 就職後、ビジネスチャットを使用した簡単相談 (気軽に相談できる！)

その他、事業所内はオフィスをイメージしています。週一からの通所もOKで、和やかな雰囲気です。

★ 発行 : 就労移行支援事業所
アイ・ワークス西明石

★ 営業時間 : 9:00 ~ 18:00

★ 住所 : 〒673-0016 明石市松の内2丁目
6-8 西明石スポットビル 3F

TEL : 0120-803-721

HP : www.twinsworks.com

Mail : iworks@twinsworks.com



SNS 紹介ページ↑

アイ・カラースを設置していただけるお店・施設を募集中！！

イベント情報を掲載してみませんか？ (*ω*) お気軽にお問い合わせください(^^) /

アイ・カラース

今月号からおたよりの名前が変わりました！

4月号



事業所取材第3弾！ ワークスペース ななかまどインタビュー！

2・3P

・こんなイベントがありました！

・就労移行支援事業所とは？

4P

おたよりの名前が「アイ・カラズ」に生まれ変わりました！
アイ・ワークスの「アイ」に利用者の個性、アイ・ワークスや他事業所様の特色など様々な「色」を尊重しようという思いを込めて「カラズ」を組み合わせました。今後も障害福祉サービスについて、利用者主体で情報を発信していきます。どうぞよろしくお願い致します。



就労継続支援B型とは？

障害や難病があり、年齢や体力などの理由から、雇用契約を結んで働くことが困難な方が「就労訓練」を行うことのできる福祉サービスです。年齢制限はありません。

軽作業（袋詰め・検品）などを短時間から行えるので自分のペースで働くことが出来ます。事業所と雇用契約を結ばないため、生産物に対する成果報酬として「工賃」が支払われます。

第3弾事業所取材では、

就労継続支援（B型）「ワークスペースななかまど」にお伺いしました。今月号では「ワークスペースななかまど」の魅力をたっぷりとお伝えします。



所在地：〒673-0011

兵庫県明石市西明石町5丁目14番8号

TEL：078-923-6371

FAX：078-923-6372

HP：<http://nanakamado8.nowa.jp/>

ななかまどの魅力①

特性に合わせた作業内容

ななかまどでは、作業が豊富なので利用者さんの特性にあわせて選ぶことができます。

袋詰めなどの下請け作業や3月に向けての雛人形作成など事業所でオリジナル商品の作成もしています。

過去には流行にのったフェリシモのカフェテイル・UVレジン・羊毛フェルト等の袋詰め作業もしていました。

取材時は、午前到手芸用クリップ赤・青10個ずつ組み合わせて袋に入れる作業で、10個がピッタリはまる板に赤・青10個ずつ挟んでちょうど20個にして最後に紙コップにいれ、その後計量をしていました。

午後にはフェリシモの真っ白なフェルトを袋詰めする作業をしていました。枚数を数える人と袋に入れる人に分かれていました。

また、在宅利用もできます。現在4人の方が利用しています。

例えば、重度の障害で通所出来ない方にも事業所と同じように作業ができるよう環境を整えています。ななかまどで作業を開始するときに在宅利用の方にも電話をして「今からはじめますよ。」と声掛けをし、一緒に開始するようにしています。

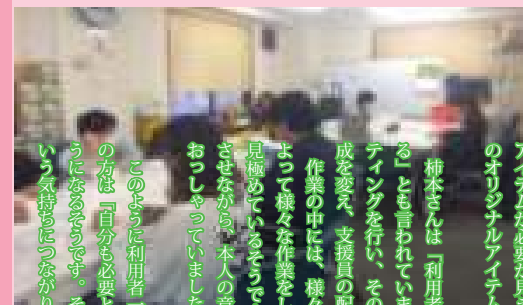
手芸品の販売などは夏祭りや地域のふれあいコンサートの際に他の事業所と一緒にスペースを設けて販売しています。また、いろいろなところをお願いして販路を拡大しています。



上 / フェリシモのフェルトの枚数を数える作業の様子。
下 / 数えたフェルトを袋詰めし、カゴに入れて分けた様子。

ななかまどの魅力②

職員さんの工夫がすごい！



このように利用者一人ひとりの事を考えた結果、利用者の方は「自分も必要とされている」という実感を持てるようになるそうです。そして、それが最終的に「楽しい」という気持ちにつながり、通所日数も増えているそうです。

柿本さんは「利用者さんとの朝の挨拶で体調の変化を観る」とも言われていました。作業に入る前にショートミーティングを行い、その日の利用者の状態によっては、班編成を変え、支援員の配置も変えるそうです。

作業の中には、様々な種類の仕事があるので、その時によって様々な作業をしてもらって、その人にあった役割を見極めているそうです。次なるステージ（就労）を意識させながら、本人の意向を聴きだそうと努力しているとおっしゃっていました。

利用者さんへの朝の挨拶で体調の変化を観る」とも言われていました。作業に入る前にショートミーティングを行い、その日の利用者の状態によっては、班編成を変え、支援員の配置も変えるそうです。

作業の中には、様々な種類の仕事があるので、その時によって様々な作業をしてもらって、その人にあった役割を見極めているそうです。次なるステージ（就労）を意識させながら、本人の意向を聴きだそうと努力しているとおっしゃっていました。

ななかまどには、様々な障害をお持ちの方が通所されています。高次脳機能障害で、左上下肢麻痺の方もいます。計数機やウエイトチェッカー、コンベアーの機械も購入し、作業に参加出来るようにしてきました。

しかし、今は「こんな道具があれば、みんな楽しく同じ作業ができるのに」と職員と相談しながら、試行錯誤の後、文鎮やミニホワイトボード、磁石など活用しながら活き活きと手芸キット作業に参加しています。アイテムという「モノ」を間に挟むことによって、安心・安定した作業につながっています。

利用者に寄り添うとは、コミュニケーションを密にはかりながらその方を知ることでもあります。

自分では車いすの人の視線が解らないので、実際に車いすに乗って行動する中で、何がバリア（障壁）か、不便なところを一緒に利用者さんと考えることができ、どんなアイテムが必要か見えてくるそうです。これまで、10数個のオリジナルアイテムが生まれていきます。



これら3つの写真は、利用者さんが作った手芸品。作業所の窓辺や壁に飾ってあった。夏祭りや地域のふれあいコンサートで販売するそう。

僕にとって最高の誉め言葉は、
誰が利用者か支援員かわからない！（1人ひとりが輝いているから）ということ。

インタビューに答えてくれた人

施設長兼サービス管理責任者
柿本 助宝（かきもと じゅほう）さん

＊趣味は？
月1回の日帰り旅行、映画やコンサートにも行く！
感性は幾つになっても磨かれる。
＊今はまっている作家
樹木希林さんの晩年の作品「あん」の原作者
ドリ安助川氏。（叫ぶ詩人の会からのファンだそうです。）
＊尊敬する人
チャールズ・チャップリン
好きな言葉は「勇氣、創造力、少しばかりのお金があればいい」
すこく笑顔が素敵で、気さくな方でした（＾＾）



【究極の社会復帰は、就労です。
アイ・ワークスさんと一緒に頑張っていきたい。】

編集後記

明るい雰囲気的ななかまどには、あらゆるタイプの人を受け入れる仕組みが整っています。「どこの就労支援にも定着できなかった」そんな人はぜひ、一度ななかまどを見学してみたいかがでしょうか？熱意ある柿本さんと専門性の高いスタッフの皆さんが、あなたの個性に寄り添いサポートしてくれるはずです★